

多和を天体望遠鏡の聖地に!!
— 地域とともに歩む博物館 —

一般社団法人天体望遠鏡博物館 監事 片山 敏彦



多和って、どこにあるの？

多和地区は、香川県の東部に位置するさぬき市（人口5万264人、2万885世帯）にあり、標高500〜800坪の讃岐山脈を含む中山間地域で、南側は、徳島県境に接している地域です。人口476人（男229人、女247人）、207世帯で、少子高齢化が進んでおります（28年12月31日現在）。



一般社団法人天体望遠鏡博物館とは？

当法人は、村山昇作代表理事を中心に、2010年に任意団体の「天体望遠鏡を文化遺産として守る会」（2007年頃から活動）から、「一般社団法人」として設立登記されました。目的は、主

として歴史的価値のある天体望遠鏡を収集・展示・活用し、①自然科学に対する関心を喚起する、②科学の発展と文化の振興に寄与する、③天体望遠鏡そのものと天体望遠鏡文化を次世代に引き継ぐことです。

天文台にあるような大型の望遠鏡を20台近く整備保管し、さらに実際に観ることができる施設は、我々の知る限り、世界的に見ても存在していません。天体望遠鏡そのものを対象にした博物館もありません。オンリーワンの施設として、当館の活動を

知った方々からは、大変興味を持って迎えてもらっています。当館の運営は全てボランティアの会員（現在約50名）で行われて



観測施設の大型望遠鏡

います。施設は、閉校となつた旧さぬき市立多和小学校。主役は、勿論、天体望遠鏡たちです。これら大型中型望遠鏡は、全国各地の施設の老朽化や運営の廃止にともない解体、廃棄される運命にあつたものを引き取り、蘇らせています（大中小型の望遠鏡を300台近く保有）。つまり、全てリユースの発想で博物館を運営しています。勿論、この取組に賛同いただいた地元企業様、国内有数の光学メーカー様から力強いご支援をい



大型望遠鏡の展示風景②



大型望遠鏡の展示風景①

ただいております。詳しくは、当博物館ホームページへお出てください。

※ <http://www.telescope-museum.com/>

なぜ、多和なの？

私たちは、博物館の候補地選定のため、四国中を見てまわりました。求めた立地条件は、次の2点でした。①夜間、観望会が開ける、そんな素晴らしい星空が期待できる。(活動する博物館にしたい！)②交通アクセスが、ある程度近隣の市街地から許せる範囲であること。(高松市街地から、自家用車で30〜40分で来館できます。)そして、行き着いたところが、この88番札所大窪寺の手前にある旧多和小学校でした。

折しも、地元多和地区の方々が、地域の振興を進めるべく「結願の郷(けちがんのさと)」、多和の会」を結成し、活動を始めたところでした。私たちは、多和の人たちの熱意と歓迎に心を動



「結願の郷」を運営する多和の会の方々

かされまされた。閉校した学校を、地域の食材や物産品の販売所とお遍路さんの休憩所を兼ねた「結願の郷」と「博物館」という複合施設として運営し、地域の活動の拠点としています。「博物館」、「結願の郷」の営業は、ともに毎週土日と、土日の連続する祝日としています。



「結願の郷」(直売所)の風景

地域とともに歩みつつける博物館

博物館は、昨年3月12日に開館し、1年が経とうとしています。多和の人たちには、ボランティアとして、中型・小型の望遠鏡の清掃、3000冊以上の天文関連の図書・雑誌の整理と図書室の整備、展示施設の清掃、管理、また、開館日の受付業務もボランティアで携わっていただいています。こうした力強い支援は、博物館スタッフの活動意欲に繋がっています。

そして、一番素晴らしいことは、活動をとおして「博物館」「結願の郷」に集



地元中学校理科教員の研修会

う、人と人との関わりが深まることです。博物館のスタッフと多和の方々が互いに顔を知り、次第に冗談を言い合う間柄になってきました。運営面で課題があっても、本音で解決策を見いだしていけるようになっていきます。

この3月には、新たに京都大学^{おとうだ}大宇陀観測所(奈良県)から口径60cmの反射望遠鏡を譲り受け、敷地内に設置し、年内に稼働を開始します。また、①常設展示と特別展示、②月1回の観望会、③望遠鏡工作教室などの体験型の教室、④天文学講演会、等々の開催を計画しています。皆様方から、「多和は天体望遠鏡の聖地!!」として認めていただけるよう、未永く活動を進めてまいります。